



# 神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 40

2004年  
8月9日

## 役員会報告 (事務局長 山田あや子)

8月役員会 (8月9日)

1. 賛助会員の入会に伴い、賛助会員の登録ルールを確認した。賛助会員の条件・資格は規約通りとする。入会申込書に本人が記入、事務局へ提出する (申込書は事務局作成)。名簿・メール (ある場合) 登録後、会報を送付する。
2. 「受託事業の申し合わせ」の明文化を安丸氏が担当する。経費 (応援者の交通費・事前準備経費など) の取扱い、売上金に対する協力金の割合など、不明確部分を検討する。
3. 子ども環境体験教室は、各教室とも成功裏に終わったとの報告があった。反省会を9月30日に行なう。
4. 横浜カーフリーデーについて、K・リーダー会は実行委員会の参加団体となることを決定した (参加費 2,000 円)。9月23日のイベントでパネルの展示を行なう。北村・香川・鎌田・大森の各氏が担当する。
5. グリーン教育支援制度にK・リーダー会が参加する前提で、大森担当が県の説明会出席・募集広報活動などを担当する。
6. 意見交換会・自然観察会・施設見学会の開催の詳細とK・リーダー会からの費用補助を検討した。

9月役員会 (9月13日)

1. 第11回市民環境活動報告会の実行委員長に黒澤副代表を選任した。実行委員は、会報第40号で公募すると共に、児玉・木本・高橋氏にも依頼する。役員会からは、近藤代表・山田事務局長・柳川会計が加わる。実行委員募集と発表者募集のチラシを会報40号に同封する。
2. 子ども環境体験教室の安丸担当から、各教室終了時の負担経費 (KERC 負担以外) と交通費の報告があり、協議の結果、準備に要する個人負担が大きいことなどを配慮し、交通費はK・リーダー会が全額負担することを決定した。
3. 横浜カーフリーデーの進捗状況の報告・確認を行なった。
4. 意見交換会・自然観察会・施設見学会について確認した。(詳細は別掲の案内のとおり) 先月検討した宿泊費用一部をK・リーダー会が負担する件は、参加者増加を願い実施することを決定した。
5. 地球温暖化対策WS事業にK・リーダー会は参加する。参加希望学校に早急に連絡をとり大森担当が県に書類を提出する。

## 施設見学会、意見交換会および自然観察会の 開催案内と参加募集

K・リーダー会事務局  
地域活動サポート部長 香川 興勝  
自然環境部会長 岩田 寿郎

本年度は施設見学会、意見交換会および自然観察会を事務局、自然環境部会、地域活動サポート部の共同企画として実施することになりました。

各会について以下の様に実施いたしますので参加下さいますようご案内いたします。

1. 実施日：平成16年11月5日(金)～6日(土)
2. 行事と日程

### 施設見学会

11月5日(金) 10時～12時

見学施設：小田原東郵便局(環境配慮型モデ

ル郵便局)

住所：小田原市前川14-1

TEL 0465-48-2052

担当：小田原東郵便局総務課課長代理 林様  
意見交換会

11月5日(金) 13時～17時

場所：小田原市川東タウンセンター

“マロニエ”203会議室

住所：小田原市中里273-6

TEL 0465-47-1515

マロニエは小田原市の施設。小田原東郵便局から徒歩約3分の場所。

- 議題：1) 部会のあり方(例、自然環境部会、廃棄物・リサイクル部会他)  
2) 受託事業・自主事業のあり方

### 宿泊

11月5日(金)

宿泊：民宿“潮騒”(収容人員40名 11室)

住所：足柄下郡真鶴町真鶴106

TEL 0465-68-1751

宿泊料金：1泊2食7,000円

チェックイン・アウト 15時～10時

### 自然観察会

11月6日(土)9時45分～12時30分

場所：真鶴半島“魚つき保安林の中を巡る”

行程：中川一政美術館前出発～魚つき保安林～西海岸～真鶴ケーブルパレスで解散  
全行程徒歩

当日参加者：

9時20分 JR 東海道線真鶴駅集合。

9時30分真鶴駅前発バスにて中川一政美術館前下車。(バス：真鶴駅前発 宮前行またはケーブルパレス行に乗車)

バスは9時30分発に必ず乗車すること。

次のバスは10時です。

約9分、3.7km、240円。

タクシーは約1,000円?

前日民宿“潮騒”宿泊者：

9時40分中川一政美術館前集合

(移動はバス、または徒歩)

服装：靴はすべらないもの。海岸なので風がありスカートは不可。

昼食：ケーブルパレスで可能。

弁当持参は随意。

飲物：行程中、飲物の購入は不可能です。

各自準備して下さい。

### 3. 交通

#### 施設見学会 小田原東郵便局への交通

(添付の図参照)

JR 東海道線“鴨宮駅”(かものみやえき)～小田原東郵便局 2.7km

・タクシー 720円～740円

鴨宮駅北口～東郵便局

・バス 170円

鴨宮駅南口1番乗り場からダイナシティ行の乗車、東郵便局前下車

10～20分(渋滞の場合あり)

・徒歩 15分 鴨宮駅北口から

バスは毎時00分、15分、30分、45分の15分間隔で出ています。)

#### 意見交換会 “マロニエ”への交通

(添付図参照)

マロニエは上記小田原東郵便局の西側約250メートルのところに位置します。

したがって JR 鴨宮駅からバスによりマロニエへ行く場合は上記により東郵便局前で下車して、徒歩でイトーヨーカドーを横切りマロニエへ向かう(添付図参照)。

タクシー、徒歩の場合は東郵便局とほぼ同じ所要時間、金額。

#### 真鶴駅～民宿“潮騒”への交通

・バス

真鶴駅前 宮の前行 またはケーブルパレス行に乗車し、宮の前で下車。

バス停から徒歩5分で民宿“潮騒”。

バスは箱根登山バス、伊豆箱根バス、どちらでも可。夕刻は1時間に2本程度の便がある。

・タクシー：720円位

### 4. 参加申し込みについて

施設見学会、意見交換会および自然観察会への参加は、それぞれへの単独参加および組み合わせ参加とも可能です。

参加希望者は“参加会名”、氏名、住所、TEL、電子メールのアドレスを明記の上、K・リーダー会事務局山田宛メール、郵送、FAXのいずれかにてお申し込み下さい。

申込み締切日：平成16年10月15日

〒243-0803 厚木市山際203-4

山田 あや子

TEL 046-245-5563

FAX 046-245-5174

siro@jeans.ocn.ne.jp



# ますます充実した「子ども環境体験教室」

神奈川県環境科学センター 生駒 進

3年目を迎えた「子ども環境体験教室」も、大成功に終わることができました。参加した子ども達の声を聞いてみましょう。充実した内容が伝わってきます。

## 《ツバメ・朝顔で環境チェック》

7月17日(土)実施

- ・こんな身近なことで環境チェックができるのは、とてもすごいと思った。ツバメの巣をあんな近くで見たのは初めてだったのでうれしい。光化学スモッグのことなどがよくわかった。

## 《写真立てを作ろう》7月28日(水)実施

- ・紙や森をもっと大切にしていきたいと思った。紙をむだにしないようにしていきたい。
- ・のこぎりやカッターは普段使っていないので、ちょっと使いにくかったけどここに来て先生がたによくわかりやすく教えてもらい無事にできました。とても楽しかったです。



教室《写真立てを作ろう》

## 《ソーラークッカーを作ろう》

8月1日(日)、21日(土)の2回実施

- ・太陽の光であんなにさつまいもやごはんがおいしくなるなんて思いませんでした。
- ・電気を使わなくてもこんないろいろな物が作れるんだなあと思いました。あと、お日様であたためられたプリンはとてもおいしかったです。またきたいです。

## 《節電タップを作ろう》8月22日(日)実施

- ・今日、省エネを勉強して今度からしっかりやろうと思った。節電タップを作れたのでよかった。燃料電池自動車に乗れたのでとてもうれしかった。

## 《ケナフ染めに挑戦しよう》

8月25日(水)、28日(土)の2回実施

- ・参加してみてケナフのことがよくわかりました。

とても勉強になりました。環境のことももっとよく考えようと思いました。参加してとてもよかったと思いました。ハンカチもできたし、友達もできました。本当にうれしかったです！また参加したいと思いました！！



教室《ケナフ染めに挑戦しよう》

今年は保護者の参加も大勢ありました(76名)。保護者の声からもその充実ぶりが聞こえてきます。

- ・太陽エネルギーのすごさを体験を通して実感しました。エネルギーを上手に利用できることをもっと広く身近に利用体験でき生活に生かせるといいですね。そのためにも子どもの目を育てるよい機会だと思いました。ありがとうございました。ごころうさま！
- ・皆様、環境について、ケナフを私たちにわかりやすく教えて頂きありがとうございました。ご熱心に取り組まれていることが伝わって参りました。子どもたちも自然、環境について大切なことを教えて頂いたことをこれからにつなげていってほしいと思います。



教室《ソーラークッカーをつくろう》

今年も応募者が多く（各教室 24 名、全教室 120 名の定員に対して 192 名の応募）予定の 5 教室に加えて 2 教室を追加実施できました（143 名の子どもが参加）。その参加した子ども達の 9 割以上が「とても楽しかった」（67%）、「楽しかった」（26%）と答え、やはり 9 割以上が「環境のことについてわかったり考えたりするようになった」（よくわかった 54%、少しわかった 40%）と答えています。これらの数字だけでなく、当日子ども達が見せてくれた喜びや驚きなど生き生きとした表情からも、子どもたちが自ら観察したり作ったり様々な体験をすることを通して、

楽しみながら環境について考えていかれるように、というこの教室の企図は十分達成できたと感じました。

このように充実した教室とすることができたのは、

	申込者数	参加者数 (子ども)	参加保護者数	参加者合計 (子ども + 保護者)
全体	231	143	76	219
ツバメ・朝顔で環境チェック	19	18	8	26
写真立てを作ろう	33	25	8	31
ソーラークッカーを作ろう	54	24	20	44
ソーラークッカーを作ろう	22	18	7	25
節電タップを作ろう	33	21	16	37
ケナフ染めに挑戦しよう	53	24	13	37
ケナフ染めに挑戦しよう	17	13	4	17

ひとえに何度もセンターまで足を運び準備に余念のなかった各教室の担当者の皆様の熱意と、リーダー一人一人の環境に対する思いが子どもたちに伝わった結果だと思いま

す。神奈川県環境学習リーダー会代表近藤作司様をはじめ、ご尽力をいただいた各教室を担当された同リーダー会の皆様に心より感謝を申し上げます。

## 平成 16 年度「子ども環境体験教室」を終えて

担当 安丸 元一

今年も、神奈川県環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」が成功裏に終わりました。科学センターの皆様のご指導、また直接指導に携わった K・リーダー会の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。各教室の終了時・楽しそうに帰る子ども達の姿、そしてやり終えて満ち足りた講師の面々を拝見し次年度への益々の発展を、そしてこの子ども達によって、将来・環境に優しい持続可能な社会が築かれることを期待します。力不足の上、途中から担当し先輩達の 3 年間のご苦勞を思いつつ感想を述べます。

今年の「子ども環境体験教室」は 3 年目に相応しく、あらゆる面で充実した教室でした。これは 3 年前のスタートからご苦勞された県環境科学センター・担当の方々、及び K・リーダー会・関係者のご努力の賜物と思います。

担当された環境科学センターの生駒様は教師のご経験もあり、子どもの指導には当初から真剣に取り組まれ我々をリードいただきました。県下の学校への誘いについて 3 年間の順を追った行動は今後の良い参考になります。ご努力の結果は計画に対し 40% 近くの増員で 165 人を受け入れ、保護者も 76 人と予想外の参加者数になりました。応募時に同伴者歓迎を提案され、休日返上で開講されたことも良い効果だったと思います。

また全面的に協力した K・リーダーの講師他関係

者の指導内容、態度は子ども達のみならず同伴した保護者にも感銘を与えました。昨年に比べ対象を小学高学年に絞り対応も楽になりました。各講師の懇切丁寧なお話、また途中の質問に親切な応答など、過去 2 年間のこの実績が今回の応募多数の原動力になったと思います。数年前から NHK で毎週日曜日に放映されている“ようこそ先輩”に負けない内容でした。ボランティアとは言え無報酬で多くの時間を最優先に割り、準備に準備を重ね、開講に漕ぎつけました。本当にご苦勞様でした。ここに今回の計画と実績を表(後記)にしてみました。(敬称を略します)

さて内容ですが、現代の環境問題全体“自然と動植物の関係、省エネと省資源、自然エネルギーの偉大さ、これらと地球温暖化の関係、ゴミと 4R”を幅広く取り上げました。しかも子ども達に解り易いテキストに纏め、実物に触れながらの体験教室でした。

朝顔、ツバメ、ジョロウグモを自分の目で見ながら自然と人間の関わりを、写真立てを作りながら限界ある資源の大切さを、待機電力を測定しムダ電力の大きさを、そして節電タップの作り方等を知りました。自分達が作ったクッカーを使い太陽熱で美味しいプリンができるとか、自然にある花で染物ができるとか、燃料電池で自分等が乗った自動車が音も無く走るとか、参加した子ども達はやがて限界が来

る石油資源が無くても煮炊きや、染め物ができ、自動車も走ることを学びました。また排気ガスを溶かした水と水道水や海・川水のPHを比較し石油燃料の恐ろしさを理解し美しい空気、水の大切さを理解しました。



教室《ツバメ・朝顔で環境チェック》

次に材料、機材ですが僅かの購入品で、多くはK・リーダーたちが日頃から蓄え、用意した品々という省資源的試みが多くありました。

講師自ら考案したクッカー用台紙でクッカーを作り、プリン容器は空き缶で、またプリン、芋、ご飯等の材料は女性講師らしく細かい気配りがあり、「ケナフ染め教室」では異常気象を予想し、ケナフの乾燥花を用意してくれました。また講師達が観察した朝顔の 대기汚染影響の記録を参考にし、当日実験に使用する河川水、海水も彼らが当日採取してきました。省エネ体験ではシンプルな部品を組み立てた発電機の原理を、燃料電池の原理を知り自分達自身のエネルギーの大きさも理解しました。このように子ども達が注意すれば日々見られる材料で、居ながらにしてすばらしい体験学習でした。

更に昼食時間の遊びに教材を取り入れる神経の細

かさもありました。手作り環境カルタ、古紙で作った輪とペットボトルを使った「輪投げ遊び」は人間の本能ですが子どもなりに競争心を誘いながら楽しく遊びました。またユニークな折り紙を使ったケナフ花の手紙には驚きです。講師が自ら一枚一枚細かく線を引き用意してくれたそうです。これらは現代の子ども達は勿論、同伴された親御さんにも参考になったはずです。玩具は店頭で買うものばかりでない事を実感したでしょう。



教室《節電タップを作ろう》

そして今年も、県環境科学センターは自然満杯の庭園、朝顔・ケナフを育てた実験農場、自由に閲覧を許された教材、設備の完備した実験室と器具を提供いただき誠に有難うございました。

過去の2回に引き続き、今回もこのように成功裏に終わりましたが、この教室の試みが神奈川県下に広がり、いずれこの5科目が小学校高学年の必須科目となるのも遠くないかもしれません。それを夢見ながら次年度からも継続しましょう。

最後に関係者の反省会が諸般の都合で9月30日となり、関係者皆様の感想を掲載できず申し訳ありません。お詫び申し上げます。

教室名	月日	受入者数(保護者)		講師陣(下:アシスタント)	
		計画	実績	計画	実績
1 ツバメ、朝顔で環境チェック	7月17日	24	19(8)	4	猪股、花上、天谷、鎌田、安藤、安丸、6
2 写真立てを作ろう	7月28日	24	28(8)	4	高尾、小川、荒谷、古澤、安部、鈴木、6
3 ソーラークッカーを作ろう	8月01日	24	25(20)	4	秋吉、狩野、原圃、内藤、4
追	8月21日	24	22(7)	0	
4 節電タップを作ろう	8月22日	24	28(16)	4	北村、吉川、依田、安藤、青野、大森、小田、香川、8
5 ケナフ染めに挑戦しよう	8月25日	24	2(13)	4	安部、鈴木、荒谷、小川、古澤、高尾、6
追	8月28日	24	17(4)	0	
計		120	165(76)	20	40

# 地域活動グループおよび 環境学習の講師などの 実態調査アンケート結果

地域活動サポート部長 香川 興勝

上記標題の記載形式でのアンケートを6月16日～7月15日に実施、32名の方々から貴重な回答をいただきました。ありがとうございました。

アンケート結果の要旨を、この誌面を借りて報告させていただきます。また、この結果に基づいた地域活動サポート部の今後の活動計画を地域活動サポート部員と本アンケートの環境教育に関する企画運営希望者（K・リーダー会役員を除く）に協力いただいで検討した結果を報告します。

## アンケート結果

アンケート結果の要旨を次に示します。詳細をご覧になりたい方は地域活動サポート部宛に連絡をお願いいたします。

1. 現在どのような目的で活動していますか？（複数回答可、回答の多い順に5件を示します）
  - ・環境教育・環境学習 7件
  - ・地球温暖化防止 5件
  - ・未来世代への持続可能な社会の形成 6件
  - ・森、里山の保全 4件
  - ・子どもたちの環境教育 5件
2. 活動している地域はどこですか？
  - ・神奈川県下全域 13件
  - ・横浜市磯子区、座間市、茅ヶ崎市、小田原市、秦野市 各2件
3. グループについて
  - ・32のグループに関する活動内容、会員数、活動資金等に対する回答があった。
  - 今後の地域活動サポート部の活動の有力な情報源と考えられます。
4. 活動資金はどのようにしていますか？（複数回答可）
 

・会費	20 グループ
・会費のみで運営	4 グループ
・助成金	17 "
・助成金のみで運営	5 "
・受託事業	10 "
・2種類の活動資金で運営	8 "
・3種類の活動資金で運営	7 "

- |      |   |       |
|------|---|-------|
| ・4 " | " | 5 "   |
| ・5 " | " | なし    |
| ・寄付  |   | 7グループ |
| ・その他 |   | 6 "   |

5. 年間の運営費はどの位ですか？
 

・20万円以下	13 グループ
・20～50万円	8 "
・50～100万円	5 "
・100～500万円	1 "
・500万円以上	2 "
・他	回答なし
6. 現在の課題は何ですか？（複数回答可）
 

・活動資金	15 グループ
・会員の確保	15 "
・イベントの参加人員	12 "
・広報活動	8 "
・その他	7 "

その他の内訳

  - ・具体的な事業の推進
  - ・法人申請
  - ・中心メンバーの専門性の向上
  - ・活動に必要なツール 他

単独回答 12 グループ（活動資金 5G、会員の確保 3G、イベントの参加者 2G）

2 課題回答	7 グループ
3 課題回答	8 グループ
4 課題解答	2 グループ
7. 所属している環境団体
 

回答いただいた32名の会員が47の環境団体に所属していることがわかった。

地域活動の各種情報源として大きな力になると考えられます。

例：

NPO かながわ環境カウンセラー協議会  
 NPO かながわエネルギーマネジメント研究会  
 NPO かながわ環境都市研究会  
 (財)省エネルギーセンター  
 国立環境研究所友の会  
 環境市民の会  
 森林インストラクター会  
 自然体験活動推進協議会  
 鎌倉環境会議  
 日本環境教育学会 他
8. K・リーダー会や地域活動サポート部に要望することは何ですか？
 

20件を越す要望が出されている。その中のいくつかを紹介する。

- ・各地域で活動しているグループからの参考になる情報の入手と交換の機会が欲しい。
- ・各グループの活動内容をつかみ総合力を発揮出来るように支援して欲しい。  
特に自治体に対して影響力を持つようになれば素晴らしい。
- ・K・リーダー会に講師派遣や講座企画の依頼があった場合、その地域に居住している会員を中心に行うのが良いと思う。地域の中でどのように活動し、その後のネットワークをつくるかということがもっとも大切なことと思う。K・リーダー会はコーディネーターとしての役割を十分にまっとうしていただきたい。これからは「地域に活動を戻す」時代と思う。
- ・機関誌だけでしか、K・リーダー会と接点を持たない多くの会員に参加の機会を提供する工夫が必要。さらに、理論よりも実践活動が大切と思う。
- ・自然環境の調査・保全の方法など、専門の先生の勉強会を開いて下さい。会員相互の学習ではなく、それぞれの専門家に直接学ぶ機会があったら参加したいと常々思っている。
- ・情報の提供です。各地域で活動されている方々の活動状況の情報、助成金、受託事業の情報の提供ですがこれはK・リーダー会会報である程度満たされていますが。

・その他 14件

#### 9. 派遣講師の希望者

22名の会員から講師としての希望者登録があった。講師としての経験、得意とする環境分野、環境関係の資格等記載をしていただいた。種々の分野にわたって専門の方々がおられることがわかった。K・リーダー会をはじめ地域活動サポート部の活動にもご協力いただきたいと思います。

#### 10. 企画運営の希望者

13名の会員から希望者登録があった。企画経験内容、得意とする環境分野、対象者、環境関係の資格等記載していただいた。種々の分野に専門の方々がおられることがわかった。K・リーダー会をはじめ地域活動サポート部の活動にもご協力いただきたいと思います。

以上、アンケート結果の概略を記載しました。詳細をお知りになりたい方は地域活動サポート部へ連絡して下さい。ご協力ありがとうございました。今後、種々な活動にこの結果を反映して行きたいと思っています。



## 神奈川県グリーン教育 支援制度(仮称)の一環をなす 環境教育支援について

事務局 大森 勝

神奈川県環境学習リーダー会は、グリーン教育支援制度の一環をなす環境教育支援の委託を県(学校)から受けるべく、環境教育支援メニューを6件提出した。支援制度の概要を以下に示す。

### 1. グリーン教育支援制度(仮称)

学校における環境教育・実践活動を推進すること、家庭におけるグリーン購入を普及することを目的として創設される。エコマーク等の環境ラベルやグリーン購入についての理解を深めるグリーン教育を実施する県内の小・中学校に対して、学校で実施する環境教育および環境保全活動に必要な支援を行う。

### 2. 試行実施方針

本年度は上記支援を行う仕組みを構築するための、試行年度である。

対象校は、昨年度「子どもたちからのメッセージ事業」を実施し試行を希望する小学校および、グリーン購入を実施し今後とも実施に意欲のある小・中学校の中から県内 15 校程度モデル校を選定する。(県決定済み)

試行内容は、グリーン購入学習プログラム 環境教育支援 その報告会からなる。このうち、グリーン教育は、学校独自で実施するものである。

環境教育支援が、NPO等の担当となる。

### 3. 環境教育支援(当リーダー会はじめ9団体がメニュー提出)

NPO等から提出された環境教育支援のメニュー例(計33件、内リーダー会6件)が県からモデル校に提示された。モデル校はその中からメニュー例を選択する。選択されたメニュー例を提出したNPO等に、県はモデル校への支援を委託する。(10月中)

モデル校は、グリーン購入学習プログラム終了後(12月)から3月末までに環境教育支援を実施する。

支援の必要経費は県が負担する。

実施結果は、NPO 等が県に報告する。

対象学年は、小学校 4 年以上中学までである。

#### 4. 報告会

グリーン購入学習プログラム実施後、報告会を開催する。

モデル校のグリーン購入学習プログラム実施結果および可能な範囲で環境教育実施結果につき発表する。優秀校は表彰する。

## 魚つき保安林

自然環境部会長 岩田 寿郎

今回、11月6日に行われる自然観察会のフィールドは、真鶴半島にある魚つき保安林です。

ご承知のとおり、保安林とよばれるものは、水源涵養保安林を筆頭に、17種類に分けられていますが、魚つき保安林というのは、子供の頃、魚釣りに出かけた時、川に木が枝を張り出し、その下がくぼんでおり魚影が濃かった記憶があたりでしょう。あのイメージの大規模版をご想像下さい。神奈川県では、唯一の魚つき保安林です。この種保安林は、北海道をはじめ北部に多いのです。一言で言ってしまうと、森の栄養が海の生物を育てるのに役立っている森といえると思います（鉄分のなせる技であると言われています）。

今から約 15 年前のことと記憶しますが、宮城県気仙沼で牡蠣の養殖をしている人達が“森は、海の恋人”という言葉を発表して山に植林をしたという話を思い出します。

牡蠣のえさとなる植物プランクトンは、森林を通過した水に含まれる栄養が必要なのと言われる。そして、そのプランクトンが増加することは、牡蠣が太れる要因となるわけです。このように、川と海が交わる汽水域を、生物の多くが棲めるよう豊かにしておくことが、海の幸を育むわけですし、森は出来れば広葉樹を入り混ぜた林床のしっかりした森にしておけば、豊かな海が約束されるようになるはずなんです。

ご存知のとおり、真鶴町はミカンと石と漁業及び観光の町といえると思います。毎年 7 月 27、28 日の貴船神社の祭礼は全国的に有名ですし、テレビで放映されますのでご覧になられた方も多いと思います。石については、今も、海岸線でなく、一段山側の道路を走りますと石を切り出してある箇所を見る事ができますし、石の販売店もあります。

#### 5. 効果の検証

試行の結果は本年度中に効果検証を実施する（県および検討会）、平成 17 年度のグリーン教育支援制度の創設へ向けての検討すべき課題も検討する。

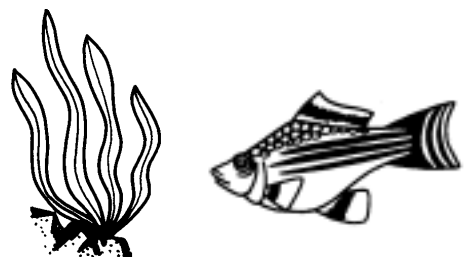


江戸城の修復に真鶴の石が、船便で多く持ち込まれたことは事実であり、この切り出しに高遠藩の石切職人が関わったことは、意外に知られていません。

肝心の森についてであります。樹種は、そんなに多いとはいえないと思います。クロマツとクスノキの大老木が人目をひきます。これらは、いずれも人間が植えたものですが、江戸時代に人の立ち入りを厳禁にし、おはやし（御林）として守られたことに理由があります。江戸時代の大火で材木不足の時、植林が推奨された頃の話に行き着きます。クスノキは、樟脳を得るための目的であったはずですが、戦後は合成品に取って代わられたことも大きくなっている理由だと思います。

それと、私は、何故あそこのマツやクスノキが、ほぼ垂直に立ち上がっているのか？という疑問をもっています。海岸に沿って立っている大木ならば、潮風によって陸側に曲がってもよさそうに、思えるのですが、現実に直立に近い樹形です。ここは、風が強くないのだ、という人もいます。まだ、幼木のころ、多くの樹種があり、お互いに風をかばいあいながら育った為に、真っ直ぐになったのではないかと考えるひともいます。是非、一度ご覧になって、ご意見をお聞かせ下さい。

森のなかに、樹齢約 350 年というクロマツがあります。県の名木 100 選に名を連ねています。今の日本の様子、地球温暖化について、350 歳の彼（彼女でもありますが）に感想を質して見たい思いにかられます。





## 部会活動

### エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告(7月~9月)

#### 1. 部会

- 7月11日(日)14:00~17:00 県民センター  
内容:子ども環境体験教室について打ち合わせ  
8月15日(日)14:00~17:00 県民センター  
子ども環境体験教室・野外フィールド教室支援  
打合せ

#### 2. 子ども環境体験教室:KELEと協働実施

8月22日(日)13:00~16:30 開催(9:10~17:00)  
:KERC

今年は、KERCのご好意で、燃料電池自動車の試乗が出来ることになり、参加した子ども達も同伴の大人も満足そうでした。又、カルタ取りの後、少エネ目標を親子で相談している様子が今年の特徴でした。少エネも家族・皆少しの心を合わせてする事が必要の様です

内容

- 30年後の環境はどうなっている?:DVD視聴  
今日のプログラム紹介:何故節電タップを作るの?  
電気の実験:電気を作るのは大変  
電気のムダ測定:ムダの少ない電気の使い方は  
燃料電池車試乗:皆で乗ればもっと楽しい  
自然エネルギー実験:太陽ってエネルギーの素!  
節電タップを作ろう:これで我が家も少エネ家族  
エコカルタ取り:自分で出来るものは何かな  
省(少)エネカレンダー記入:実践目標は、これ!

### ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

ケナフ部員が携さわった7月~9月の活動及び10月~12月の予定について報告します。

#### 1. ケナフの栽培状況

まず、環境科学センター圃場でのケナフの栽培状況を報告します。

今年は大変な高温と日照りで、ケナフ栽培も今迄に経験したことの無い程栽培に苦労しています。7月以後の一連の状況を記しますと;

- 7/3 雑草取り、及び水遣り。  
7/10 雑草取り及び水遣り。  
7/19 雑草取り、及び水遣り。

省(少)エネの環に記入:お家のお父さん、お兄さん、周りの人達に省(少)エネの環を広げよう!

活動予定(10月~12月)

#### 1. 部会

- 10月31日(日)14:00~17:00  
県民センター 601  
11月21日(日)14:00~17:00  
県民センター 601  
12月12日(日)14:00~17:00  
県民センター 603

#### 2. 対外活動

- 8月25日(水)10:30~15:00  
舞岡公園内古民家前  
夏休みフィールド体験教室:KELE 開催支援  
内容:森はクーラー、涼しいよ!  
太陽炉、太陽光発電、風力発電、燃料電池  
:太陽はエネルギーの素、手回し自動車  
古民家に、クーラーは要らない  
【地球温暖化視聴】:30年後地球は融ける?  
エコカルタは楽しい:何をしようかな  
9月23日(木)11:00(9:00)~16:00(18:00)  
横浜カーフリーデー展示:横浜美術の広場・開港記念館  
:車をおいて出かけよう!カーフリーデーとは、車と環境問題、都市交通のあり方、街の賑わいなどについて考える日  
:参加37団体  
・リーダー会:(大気環境部会、エネルギー部会展示)  
・KELE 展示を支援  
注:KELE:神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会

- 7/26 俄か雨が降る、やっと成長の目処がつく。少し花が咲いているのを確認。  
8/22 圃場の草取り及び水遣り実施。  
上記のような状況です。あらためてケナフが弱い植物であることを実感しています。

#### 2. この期間活動報告(ケナフ栽培以外)

- 7/10 環境科学センター主催「子ども環境体験教室写真立を作ろう」の用材を環境科学センターに運搬  
7/26 ケナフ部会定例会、及び7/28開催の環境科学センター主催「子ども環境体験教室写真立を作ろう」の準備。  
秦野市立南小学校の4年担当の先生5名来センター、ケナフの茎~紙漉き迄を実地体験して頂く。(午前10時~午後3時迄)

- 7/28 環境科学センター主催「「こども環境体験教室写真立を作ろう」開催  
 申込者数 33名 受入数 28名 当日の参加者数 25名 参加保護者数 13名  
 講師 古澤正文さん、高尾行一さん、小川正敏さん、荒谷輝正  
 参加者は出来た作品を見ながら、満足の様子でした。
- 8/5 社団法人神奈川県青少年協会からの依頼により、中学生、高校生に、相模原市のボランティア活動紹介の一環として、K・リーダー会ケナフ部会を紹介、安部洋子さん、古澤正文さん、荒谷輝正
- 8/6 環境科学センターで「こども環境体験教室花染めに挑戦しよう」の準備及びリハーサルを実施。問題無く終了。
- 8/22 環境科学センター生駒さん入院に伴い、野崎さんと「ケナフ染め」教室についての確認、安部洋子、荒谷輝正
- 8/25 環境科学センター主催「「こども環境体験教室ケナフ染めに挑戦しよう」開催  
 申込者数 53名 受入数 26名 参加者数 24名 参加保護者数 13名  
 講師 安部洋子さん、小川正敏さん、鈴木顯さん、荒谷輝正
- 8/28 追加、環境科学センター主催「「こども環境体験教室ケナフ染めに挑戦しよう」開催、  
 申込者数 17名 受入数 17名 参加者数 13名 参加保護者数 4名  
 講師 安部洋子さん、小川正敏さん、高尾行一さん、荒谷輝正

- 8/25、8/28 とも参加者は作品の出来映えに満足の様子でした。また、K・リーダー会役員の方が多く参加して頂き有難うございました。
- 9/22 ケナフ部会 9月例会。  
 ケナフの花を収穫する。また、ケナフの茎をパルプ化する作業を行う。

### 3. 今後の予定

- 10/15,22 藤沢市高谷小学校 4年生 3クラス、約 100名  
 総合学習の一環としてケナフ紙漉き体験～パルプ作りから紙漉きまで～  
 小糸昌子さん
- 10/18,25 藤沢市新林小学校 4年生 3クラス、約 100名、  
 総合学習の一環としてケナフ紙漉き体験～パルプ作りから紙漉きまで～  
 小糸昌子さん
- 秦野市立南小学校  
 7/26 に来センターされた秦野市立南小学校の栗原先生から 10月に指導に来て欲しいとの依頼がケナフ部会に有りましたので快諾しました。
- 横浜市立釜利谷小学校  
 児玉さんを通じて、ケナフの紙漉き指導の依頼があり、小川さん対応中。小学生からケナフについて問い合わせが来ています。
- 11/14(日) ケナフ部会研修旅行  
 山梨県「ながとみ和紙の里」見学予定

## 自然環境部会

部会長 岩田 寿郎

11月5、6日に地域活動サポート部と共催で、平

成 16年度第1回意見交換会・自然観察会(兼見学会)を行います。(詳細は別掲)

自然観察は、県下唯一の“魚つき保安林”である真鶴半島を巡ります。

## 水環境部会

事業担当 古谷 敏夫

### 1. 水生生物の調査目的

水生生物とは、ヨコエビやカワニナのように、一生涯の中で生活する生物やカワゲラ・カゲロウのように幼虫のときには川の中、羽化した成虫は短期間陸上で生活する昆虫類である。

河川環境に適応した数多くの生物が生息していることから、水生生物の調査によって、化学分析など一時的なデータとは異なり、水質を含め時間経過をとらえた河川環境の現況を知ることが

できる。

### 2. 16年下半期事業計画

- (1) 酒匂川水生生物調査 10月10日(酒匂川)
- (2) 16年度調査内容のとりまとめ 11月  
(環境科学センター)
- (3) 17年度活動方針のとりまとめ 17年3月  
(環境科学センター)

### 3. 16年上半期実施事業

- (1) 酒匂川水系・水生生物調査(6回)
- (2) 水生生物の分類・分析と水質調査手法研修会(1回)

# 大気環境部会

部会長 猪股 満智子

## 活動報告

横浜カーフリーデー2004に出展参加

・9月23日(木・祭)於:桜木町みなとみらい~関内エリア(展示とシンポジウムは横浜開港記念会館)

実行委員会方式による企画にリーダー会、エネルギー部会と共にパネルを中心にした出展の参加

・9月27日(日)13:30~16:30 於:KERC 実験室 14名参加

学習会「NO2測定調査の評価・検討」

講師 KERC 研究員

講習会「新方式ソフト活用の地図入力」

講師 KERC 研究員

部会も開催 詳細は次号掲載

6月度NO2測定マッピング ホームページ掲載

・お待たせしました。今測定日は台風の影響もあり最悪の逆転層現象。いつもより高めの測定値となりました。マッピングデータは大勢の参加協力による測定データを部会でまとめ、地図化。広報部原園氏にウェブページ化していただいています。

・自然度調査「ツバメ」調査時期7月末 出しそび

~~~~~

## 地域活動サポート部

部長 香川 興勝

地域活動サポート部の活動計画について

アンケート結果を地域活動サポート部の活動内容に反映させるため、8月2日にサポート部員で会合し、さらに、9月6日には企画運営希望者5名にも加わっていただき、拡大地域活動サポート部の会合を行った。

基本的には、地域活動サポート部の会合を地域の人との情報交換の場として運営していき、地域活動の輪を徐々に広げていくことになった。そのためにはサポート部の会合に課題を決めて地域での活動者に参加していただき、情報交換や活動報告会を行い、やっているうちにネットワークが広がっているという地道な活動を行って行くことになった。

また、アンケート結果にもとづいた次の具体的な活動を実施して行く。

1. 32の活動グループの活動内容が把握できたが、

れの方、至急お送りください。

ツバメを見た 巣にツバメを見た

データは地域詳細地図に記入、下記猪俣へ。

## 活動予定

・自然度調査「ジョロウグモ」

特徴:コガネグモに似ているが角ばって派手な形・メスはどんどん大きくなりわかりやすい。馬蹄形・三重構造の網目

地域地図にジョロウグモがいた地点に×を記す

調査期間:11月中旬

提出期限:11月末日

提出先:猪股 〒248-0027 鎌倉市笛田 2-33-3

又は KERC 環境学習担当宛

FAX 0483-24-3300 か郵送

・12月度NO2一斉測定のお知らせ

捕集管準備:11月22日(月)13:30~16:00  
実験室

一斉測定日:12月2日(木)夕~3日(金)夕の  
24h

一斉分析日:12月11日(土)13:30~ 実験室  
部員以外で試してみよう、協力するよという方、  
どうぞご一報を。

さらに具体的な活動内容をサポート部員で理解し、“活動グループだより”として会報で紹介する。情報の提供と交流の場の足掛かりとする。

2. 講師派遣希望者、企画運営参加希望者が35名。今後、K・リーダー会や地域活動サポート部の運営にもご協力していただきたいと思えます。

3. 活動で困っていることとして、資金および会員数確保が明確になった。国、地方自治体、民間からのボランティア活動への援助金情報の収集につとめ、会報で広報することに注力していく。

4. 講演会の開催  
今期の計画通り実行する。専門性の高いもの・市民活動のきっかけになるようなもの等を考慮しながら企画したいと思っています。皆さんからの情報提供をお願いします。

5. 見学会の開催  
今年は11月5日(金)に環境配慮型郵便局・小田原東郵便局の見学会を行います。

## = 豆知識のページ =

# 10月は 3R(スリーアール) 推進月間です

GO3の会 原園 信夫

10月の3R月間を迎えるにあたり、経済産業省の「みんなで実行3R」と「いま地球のためにできること」のパンフレットを使い、文章を構成しました。

循環型社会を作るためには、Reduce Reuse Recycleの順番で3Rに取り組むことが効果的です。環境に与える影響や費用のことも考えて、適切な方法を選ぶようにしましょう。

まず、日本の現状を確認します。(平成13年度)

|        | 全国           | 神奈川県         |
|--------|--------------|--------------|
| ごみ総排出量 | 5,210万トン     | 360万トン       |
|        | 1,124 g/1人1日 | 1,169 g/1人1日 |
| 総資源化量  | 825万トン       | 22万トン        |
|        | ごみ総量の15%     | ごみ総量の6%      |
| ごみ処理費用 | 26,029億円     | 1,128億円      |
|        | 20,500円/人    | 13,000円/人    |

神奈川県の数字は「一般廃棄物処理事業の概要」から引用しましたが、全国平均より多くごみを出しています。一人、100gの減量を図る運動を展開したいものです。

また、天然資源に乏しい日本は、石油、鉄、木材、その他いろいろなものを海外からの輸入に頼っています。輸入依存度：鉄、アルミは(100%)、石油(99.7%)、木材(81.6%)、食料品(60%)。

国は循環型社会形成のためにいろいろな法の整備を行ってきました。

### 1. 循環型社会形成推進基本法(基本的枠組み法) (H13年1月施行)

社会の物質循環の確保、天然資源の消費の抑制、環境負荷の低減

### 2. 資源有効利用促進法(H13年4月施行)

3Rに配慮した設計・製造、分別回収のための表示、副産物の発生抑制・リサイクル

### 3. グリーン購入法(H13年4月施行)

リサイクル品や環境に配慮した商品を購入し使用することを進める

### 4. 容器包装リサイクル法(H12年4月施行)

ゴミの約6割は容器包装ごみ、これらを分別回収し、再商品化の推進に関する法律

### 5. 家電リサイクル法(H13年4月施行)

一般家庭から排出される家電製品は年間60万ト

ンで粗大ごみの50%を占めていました。その大半が埋め立て処理でした。それを再商品化するための法。排出時・排出者負担の法。

14年度は1,015万台が処理されました。

### 6. 食品リサイクル法(H13年5月施行)

日本は、食料の60%を海外から輸入しています。そして年間2,198万トンの生ごみが排出されています。その内家庭からは56.5%、その残りが食品関連事業者からの排出で、平成18年度までに再生利用等の実施率を20%以上に向上させることが目標です。

### 7. 建設リサイクル法(H13年5月施行)

建設現場から排出される建設廃棄物の量は1年間で8,300万トン、産業廃棄物の20%を占め、埋め立て処分されてきました。平成22年までにリサイクル率95%を目指します。

### 8. 自動車リサイクル法(H17年1月施行)

日本の自動車保有台数は約7,400万台、その内毎年約400万台が廃棄処理されています。自動車のリサイクル率は80%、残り20%のシュレッダーダストは埋め立てられていました。対象は、フロン類、エアバッグ類、シュレッダーダストをメーカー・輸入業者が処理します。

### 9. 資源有効利用促進法

使用済み製品の回収・再資源化を促進するための法。パソコンはH15年10月1日から施行されました。充電式電池(小型二次電池)も電気店や量販店に配置されているリサイクルボックスに入れましょう。

再度チェックしてみましょう。

#### リデュースの実践

- ・買い物のときは、マイバッグを持参し、レジ袋を断る。
- ・過剰包装や不要な包装は断る。
- ・買いすぎないように、要らないものを買わない。
- ・洗剤、シャンプーなどは中身を詰め替えられる商品を買う。
- ・長持ちするものを購入する。

#### リユースの実践

- ・リターナブル容器のものを選ぶようにする。
- ・不要になったものは、フリーマーケットに出したりする。

#### リサイクルの実践

- ・市町村のごみの出し方に沿って、出す。
- ・リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選んで購入する。

## 会員の広場

### 川紀行

## ウスリー川を調査して

神奈川県環境科学センター 石綿 進一

(広報部注：石綿さんはK・リーダー会の賛助会員です)

川の生き物を調べ初めてほぼ 30 年が経過しましたが、この間、印象に残った外国の川について述べ、仕事の一端を紹介しながら、自己紹介にかえさせてみたいと思います。

1992 年 5 月中旬から約 1 ヶ月、ロシア極東地域の川を調べたことがあります。目的は、カゲロウの分類・分布・生態の調査でした。日本学術振興会の研究助成「極東地域の河川生態系の構造と機能に関する研究」によるロシアとの共同研究です。広大な大自然とそこにすむ生物たちに触れることの出来るまたとないチャンスで、大きく胸がふくらんだことはいうまでもありません。ウラジオストック近郊の自然保護区ケドロバヤを拠点として、いくつかの川を調査しましたが、ここではウスリー川を調査したことを綴ってみましょう。

ウスリー川は、アムール川の支流でハバロフスクで合流します。河口から 1000km も上流のハバロフスクで、川幅が数 km にも及ぶのですから、それは大変大きな川であることが理解できます。調査方法はラフティングで上流から 10 日間ほどかけて下ってきます。8 名ほどの軍用ゴムボートを使用しました。このような方法は途中で道がほとんどないため、ロシアでは一般的な調査方法といえます。もちろん野営で、缶詰、調味料、パンの他はほとんどが現場で調達です。調査メンバーは、ロシア側はロシア科学アカデミーの 4 名と日本からは私を含め 2 名でした。ヘリが調達できなかったので、車でチェグエフカという町まで行き、そこから川下りです。食糧、ゴムボートで大変な荷物になりました。一人につき背中と前にそれぞれ 30kg もある荷物を持っていったのですから大変な量です。

さて、実際の川下りですが、初めのうちの 2~3 日は急流もあり、しぶきを浴びながらの操舵でちょっと緊張しましたが、岩にぶつからない程度になんとかやり過ごすことが出来ました。途中、採集に適する場所があると、全員で力任せにオールを漕いで目的の場所にボートを着けます。もちろん失敗もあり、次の場所を探すといったこともしばしばありま

した。その場所でカゲロウを採集したり、山菜やキノコを採集したり魚を釣ったりしながらの移動で、今はやりのスローライフとでも言いましょうか、まことにのんびりした採集旅行でした。周りは新緑の季節で、オキナグサ、ヤマブキ、ナルコユリ、ヒメギフチョウ、アゲハなどなど見慣れた草花や昆虫たちが出迎えてくれました。大型の動物では、シカの声はよく聞きましたが姿を見ることはありませんでした。クマは川を横切って対岸に泳ぎ着いているのを目撃したことがあります。トラ、レオパル(雪豹)に至っては目撃は皆無でした。一日の行程が終了すると、たき火を囲み食事です。たらふく食べ、当然、ウォッカも毎日あります。こんな調子でしたので、数日すると運動不足で胃がもたれはじめます。腕だけは使いすぎ、他の筋肉は使わないためです。

日程も後半に近くなる頃は、川の流れも緩やかになり、毎日気温 30° を越す暑さのなかなので、だるさが加わってきます。沿海州といってもウスリー川周辺は、内陸になり大陸性気候のため昼夜の寒暖の差が激しいことをこの時知りました。この時期は、雪解け水も多く水量が増加しているため、かくれた倒木などで傷を付けることが多かったのでしょうか、あるいは古いボートなのか、よく穴が空き、空気を足ポンプで入れながらのラフティングにはだいぶんなれましたが、陸に揚げ修理をしなければならないことも何回がありました。このラフティングで最も危険なのは、緩やかな流れになる頃始まります。平坦になるため我々の位置が分からなくなると同時に、川が幾枝にも分かれたりして、まるで迷路のようで、ルートファインディングに最も注意を注ぐからです。人力ですので迷路に迷い込んだらおしまいです。

幸い事故もなく、無事、根拠地のケドロバヤに帰ることが出来ました。このケドロバヤでは、出発前には、春の女神ヒメギフチョウが飛び交っていたのですが、帰ってみるとその姿はなく、新緑の緑も深まり春真っ盛りでした。食草のウスバサイシンの葉裏に整然と産み付けた真珠のような卵をここで見ることが出来ましたし、ウスバシロチョウやき華麗なミヤマカラスアゲハの春型の数十にも及ぶ集団が吸水に来ていたりして、相変わらずきれいな光景が私たちを待っていてくれました。

その後、ロシアの研究者との交流は続き、環境科学センターで招聘したり、論文を共同で書いたり、現在でも交友を深めています。

なお、この文は、環境科学センターニュース 1993、No.4 に掲載された「ウスリー川を調査して」を、一部加筆したものです。

# 「こどもサイエンス フェスティバル」 に関する報告

高橋 尚道（横浜市）

8月25日（水）～26日（木）の2日間、洋光台第4小学校で開催された、横浜市磯子区主催のイベントに、「洋光台まちづくり協議会」の一員として参加しました。

このイベントは、磯子区が初めて企画し、磯子区内の事業所や学校等の協力で実現したもので、2日間で約2,000名（区役所の話）が来場（うち大人が約40%）しました。

勿論、K・リーダー会主催の「環境展」とは性格が異なりますので、単純な比較は出来ませんが、集客の方法、イベントの内容等で、「環境展」の参考になりそうな事項を整理してみました。

## 1. 今回のイベントの成功要因

- (1) 磯子区内では、戦後、東京湾の埋め立てが進み、ここに石川島播磨、電源開発、東京ガス、東芝、東京電力、日清オイリオ、新日本石油等、大手企業が進出しているほか、洋光台には「洋光台子ども科学館」があり、区としては協賛を得やすかった。
- (2) 会場の第4小学校には、空き教室を改造したコミュニティーハウスが設置されており、部外者を受け入れる体制がある程度整っている。
- (3) イベントの計画段階から、連合自治・町内会が基幹となり、中学校PTAや子供会の役員も参画している「洋光台まちづくり協議会」が積極的に協力し、協議会の打ち合わせには、毎回区の職員が出席して意見交換を行った。
- (4) 区ではポスターとチラシを、区内の中学校（8校）と小学校（17校）に職員が持参して参加を呼びかけた（特にチラシは14,000枚印刷し、小・中学校の児童生徒全員に配布した）。
- (5) 小学校に併設されている「学童保育」の計画に織り込んで貰うよう依頼した（大人に引率された数名から10名程度のグループが幾組も見受けられたが、この大部分が学童保育のグループとのことであり、環境展でもこのグループに働きかけるのも有効ではないかと考える）。
- (6) イベントを、小学生達が夏休みの課題仕上げに追われる、8月下旬に設定した。

## 2. 今回のイベントの概要

午前の部、午後の部に分けて夫々に実演時間を設け、子ども達が、いろいろなイベントに参加できるように工夫されています。

これらのなかで、私が、環境展でも使えそうだと思ったものをいくつかあげてみます。

- (1) 温暖化実験（これはすでにエネルギー会で行っています）。
- (2) 合成洗剤と石けんの違いを、蛍光染料が入っているかいないかで見分ける方法と、汚れた食器は、十分にぬぐってから洗うか否かで、洗淨水の汚れが大幅に違ってくることを実体験させる（この実験では、熱心にメモをとっている母親が目立ちました）。
- (3) 自転車を使った発電実験では、自転車に自動車用のダイナモを取り付けて、インバーターで100ボルトに変換する装置を使っておりましたが、若干費用はかかるものの、環境展でも使えそうに思いました（東京ガスで借りるのも一つの方法かもしれません）。
- (4) 横浜国立大学の大学院生が設計製作した、正四面体のペットボトルピラミッド（240本を使用）では、使用したボトルの数当て、図形の種類探し等、クイズ遊びで人気がありました。
- (5) ビー玉万華鏡や、アクセサリー、カラー石けん（ワックスを使用）づくりは「地球っ子ひろば」で使えそうです。

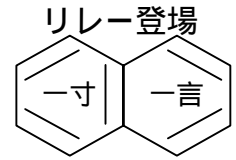
最後になりましたが、このイベントには、香川さんが、わざわざ見学にこられました。この欄をお借りして感謝申し上げます。



地球温暖化実験機器（東京ガス(株)出展）

# 釣瓶落としと3ナキ

(松がナキ、セミがナキ、人がナキ)



福田 昭三 (相模原市)

6月の末頃どこからか聞えて来るツクツクボウシの気怠い鳴き声、そして7月には一気にけたたましく暑を運んで来る様に鳴くアブラゼミ、それを追う様に力いっぱい我が物顔ではげしく鳴き続けるミンミンゼミ。暑い暑い夏は最高潮だ。間を置いてしんがりは蝸(ヒグラシ)だ。夕暮れ真近かにどこか遠くでその悲しく人生の黄昏を、そして夏の終りを知らせる...

遠い幼い頃母の背で聞き、暑さの中で思いを交錯させるセミの鳴き声、忘すれることの出来ない世に習った事、父に教えられた事、現在(いま)解きほぐす。貧乏な百姓家の三男坊の私は毎日学校から帰るとかばんをほうり投げ、夏は魚釣り・水遊び、冬はスキー・山歩き、そんなアソビボケの毎日だった...年中顔と身体は真黒だったし自然と何時も一緒だった。会津の自然は自分のものだった...

そんな夏休みの初日あまり小言や説教等言ったことのない父が、わたしを呼んで烈火のごとく怒鳴った...。私は何故?父がこんな怒るのか...まったく知るよしもなかった。セミを何匹も板にハリツケて、自分のやっている事がわかっているのか...これが人間のやる事か、今夜はメシ抜きだ、良く考える。セミだって一生懸命生きているのだ、それもな...深い土の中で7年も生活しやっと地上に出て日の目にあって、たった7日間しか生きる事の出来ないセミ、そんなセミに、何でお前はこんな惨い事をするのだ。セミがお前に悪い事でも...人間に害になる事をしたのか、このセミだって今日土の中より出て最初の日の出だったかもしれない、それをお前は...。これは夏休みの自由研究における昆虫採集だとはとてとも言える状況ではなかった。更に父は言った。お前

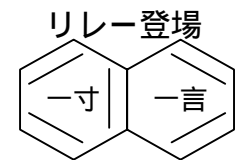
だって何も悪い事をしないのに両手両足に五寸釘を打たれ柱に付けられたらどんな思いをする。こんなに激しくそして表情を変えて怒った父の顔を初めて知った...。そしてこれが最初で最後の父の怒りと教えだった。

あれから50年、ヒグラシが鳴き秋の日が沈む今、その釣瓶落とし(つるべおとし)を見ると父を想い出す。この公園のセミもそれを支える松の木も年々減少し寂しくなる。経済大国日本、大量生産、大量消費、大量廃棄。戦争と言う名のもと大量の爆弾を投下し、多数の人を殺害し民主主義のためだとウソづく大国、そんな自分勝手な人間の行動の繰り返しも現在そのツケが来て松がナキ(泣き)セミがナキ(無き)人がナキ(鳴き)、そしてその結果としてじわじわと忍びよるこの地球の釣瓶落とし、広い宇宙よりまっしぐらに真っ暗な底知れない未知の世界に落ちて行く日が必ず来るのでは...。その地球がナク(亡く)なる日をただただ見送るのか。

私は思う、そして提案する。自分に出来るものを一日一つで良い、この大切な地球、かけがえのない地球に対し行動しよう。木を植える事だって、ごみを拾う事だって、水や電気を節約する事だって何んだって良い、何か一つ善い事を実行する、そんな人が、そんな仲間が増える。K・リーダー会がそんな仲間の集団であり心やさしい仲間であれと...。そしてこの地球は決して人間だけのものでない、全ての命ある物が共生する全世界のたった一つの生命体なのだ。

つぎは川崎市の横山滋さん(4期)に登場していただきます。

# 自然を感じたあの日のこと



齋藤 絵美 (平塚市)

以前、奥多摩の原生林でキャンプしたことが忘れられない。

人がほとんど足を踏み入れていない自然のままが残っている多摩川上流で沢登り、薪割り、ロープワーク、焚き火、そして夜は一人一人が森の好きな場所にシェルター(寝床)を作って寝る...という一風変わったキャンプに参加した。水の流れる音、風のそよぐ音、ひんやりした生まれただばかりの様な空気、足の裏から感じるふかふかの草、今でも目を閉じるとあの景色、体に染み込んだあの空気がすぐ

そこにある。私はあの時ほど自然を感じたことがなかった。自然という清らかな圧倒的な力に包まれその中で身に余るほどの心地良さを感じ、私は何度も何度も深呼吸をしていた。自然の美しさ、心地よさ、自分を包む圧倒的な力をわたしは体の感覚で感じていたのだ。その中にいるだけで自分の中のリズムがひとつひとつ整われていく様だった。

その時にキャンプリーダーが言った言葉を紹介したい。

「今、僕たちの横に流れている水は何億年まえから

ずーっとあるんだよ。ある時はどこかの海であり、ある時はどこかの川であり、生活廃水として使われたり、はたまた野菜のなかの水分であったり、だれかの体の一部であったりした。そして土にもどり、また海となり・・・その様にして水はめぐりめぐりながら、何億年と自分が生まれてくるずーっとずーっと昔から一滴もこの地球から入れ替わることなく循環し、命を繋いでいるのだ。」

たしかこのような言葉だったと思う。この時わたしのすぐ横には木の根元から水がまさに生まれ落ち、生まれたての様な音を奏でながらさわさわと清流が流れていた。それは何億年という間、命を繋いできた命の水だった。

自然の大切さ、それを前から分かっているつもりだった。しかし頭の中で理解するのではなく、体で感じる事、それが循環教育で一番大切なことだと思う。体に染み付いたあの空気をわたしは決して忘れないだろう。

つぎは子供エコクラブ、地球っ子ひろば等の活動をしている平塚市の山口洋子さん(7期)の登場です。

(広報部注)齋藤絵美さんは大学の長期休みは海外でのさまざまなボランティア活動を体験していたそうです。その中で、環境活動もあったようです。今年大学を卒業したばかりで、若い人の環境活動もとても大切ですので長い目で応援し、実を結ぶのを見守っていききたいと思います。



左端が筆者(齋藤さん)

## 掲示板

広報部員を募集します!!

広報部

広報部では下記の通り部員を募集しております。皆さんの新しい風を、会報に、そしてリーダー会に吹き込んでみませんか。たくさんの会員の皆さんの応募をお待ちしております。

担当の役割:

- ・会報の編集企画
- ・会報記事の取材
- ・会報紙面の作成(パソコン操作)
- ・会報の印刷、発送
- ・HPの作成・更新

募集期限:いつでも受け付けます。

連絡先:広報部長(本誌末尾参照)

会計からのお願い

会計担当 柳川 三郎

平成16年度の会費未納者は現在36名です。お送りいたしました郵便局の払込取扱票で、是非早めに会費の納入をお願いいたします。

会は皆様の努力で各部会をはじめさまざまな活動が活発化いたし、周囲の認知度も着実にステップアップしています。

会費は会の活動の重要な原資となりますので、重ねて早めの会費納入をお願いいたします。

振込先:郵便局振替番号:00230-4-30769

神奈川県環境学習リーダー会

会のパンフレットを改訂しました

広報部

会のパンフレットをマイナーチェンジしました。大いに活用してください。

1. 環境活動の項目追加
2. 活動事例・講師派遣1項追加
3. 会員資格の表現見直し
4. 組織変更に伴う変更
5. 代表のe-mail及び会のHPアドレス変更

### 編集後記

地域活動サポート部の行ったアンケート調査結果が発表になったが、活動の目的に多くの人が環境教育・環境学習を挙げており、又、派遣講師を希望する人もアンケート回答者の70%近くを占めている。

一方県は、神奈川県グリーン教育支援制度(仮称)を立ち上げ、その事業のうち環境教育支援を本年度は試行的に県下のNPO等に委託することにした。

折りしも今年も環境科学センター主催で、今まさに環境実践者養成講座が開かれており、当会も2つの講座を受け持つ。環境学習・環境教育に関し、県内での当会への期待は益々大きくなってきており、これに応えるべく会員相互の情報交換・研鑽の場を増やしていきたいものだ。

広報部 黒澤 宏

発行人: 神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人: 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日: 2004年9月30日